

科目名	医学英語:講義	開設学期	前期
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	2単位	授業回数	15回
目標	医療の国際化が進む中、国内外の医師と連携を図る必要があり、医療現場でカルテを読み解くための語学力を身につけるために人体および治療に関する単語を修得する。		
講義内容／前期			
1	アルファベット、発音の復習及び骨格名称 1		
2	人体各部の名称 1（人体体部の一般的な名称）、骨格 2／小テスト（骨格）		
3	人体各部の名称 2／小テスト（骨格）		
4	骨格筋 1／小テスト（骨格、人体各部の名称）		
5	骨格筋 2／小テスト（骨格、人体各部の名称、骨格筋）		
6	主要な体腔／小テスト（人体各部の名称、骨格筋）		
7	目・英名称と連結形／小テスト（人体各部の名称、骨格筋）		
8	肩と膝の関節の構造、体位と体肢 1／小テスト（人体各部の名称、連結形）		
9	手の骨、体位と体肢 2／小テスト（肩と膝の関節の構造）		
10	足の骨、体位と体肢 3、医療関係施設と医療関係職種／小テスト（肩と膝の関節の構造、手の骨）		
11	医学用語の形成 1／小テスト（手の骨）		
12	医学用語の形成 2／小テスト（足の骨）		
13	複合語、合成語／小テスト（総まとめ）		
14	カルテの形式と項目／小テスト（総まとめ）		
15	まとめ		

科目名	解剖生理学	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	遊動整復師として必要な論理的思考力を育てるために、1年次に履修した解剖・生理から実践的な内容を修得する。		
講義内容／前期			
1	解剖：人体の区分		
2	解剖：骨の名称（脊柱）		
3	解剖：骨の名称（胸郭）		
4	解剖：骨の名称（上肢）		
5	解剖：骨の名称（骨盤）		
6	解剖：骨の名称（下肢）		
7	解剖：骨の名称（手部）		
8	解剖：骨の名称（足部）		
9	解剖：関節の名称（脊柱）		
10	解剖：関節の名称（上肢）		
11	解剖：関節の名称（下肢）		
12	解剖：関節の可動性（体幹）		
13	解剖：関節の可動性（上肢）		
14	解剖：関節の可動性（下肢）		
15	生理：内分泌系の機能①		

科目名	解剖生理学:講義	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	遊動整復師として必要な論理的思考力を育てるために、1年次に履修した解剖・生理から実践的な内容を修得する。		

講義内容／後期

16	生理：内分泌系の機能②
17	生理：内分泌系の機能③
18	生理：内分泌系の機能④
19	生理：神経の機能（中枢神経）
20	生理：神経の機能（体性神経系）
21	生理：神経の機能（自律神経系）
22	生理：感覚の生理学①
23	生理：感覚の生理学②
24	生理：感覚の生理学③
25	生理：呼吸の生理学①
26	生理：呼吸の生理学②
27	生理：消化と呼吸①
28	生理：消化と呼吸①
29	まとめ
30	まとめ

科目名	保健体育Ⅰ(保健) : 講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	(1) 科学的思考力を育てるために、ヒトの発生及び発達に伴う変化やヒトの体を構成するさまざまな細胞、器官、臓器についての知識を修得する。 (2) 「礼に始まり、礼に終わる」柔道の基礎を学び、相手を思いやる精神を身に付け、人間性を磨く。		
講義内容／前期			
1	解剖・生理学の基礎知識(細胞とその働き)		
2	体を支える仕組みと運動1(骨の形とつながり)		
3	体を支える仕組みと運動2(筋の構造と働き)		
4	体を支える仕組みと運動3(上半身、下半身)		
5	血液の流れに関わる臓器と仕組み		
6	呼吸に関わる臓器と仕組み		
7	消化・吸収に関わる臓器と仕組み		
8	ヒトの発生について		
9	ヒトの体の成長に伴う変化1(骨の形と筋の働き)		
10	ヒトの体の成長に伴う変化2(血液と呼吸)		
11	ヒトの体の成長に伴う変化3(老化現象について)		
12	遺伝の仕組み		
13	情報の受取り方と伝え方1(目、鼻、耳)		
14	情報の受取り方と伝え方2(運動、位置、平衡)		
15	まとめ		

科目名	保健体育 I (保健) : 実技	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	(1) 科学的思考力を育てるために、ヒトの発生及び発達に伴う変化やヒトの体を構成するさまざまな細胞、器官、臓器についての知識を修得する。 (2) 「礼に始まり、礼に終わる」柔道の基礎を学び、相手を思いやる精神を身に付け、人間性を磨く。		

講義内容／後期

16	柔道の心得/受け身
17	受け身：後、横
18	受け身：前 立位での受け身
19	前回り受け身/体裁き
20	背負い投げ/大腰
21	一本背負い/体落とし
22	足技
23	払い腰/寝技：袈裟固め
24	内股/寝技：横四方/縦四方
25	連絡技/寝技：上四方
26	3人打ち込み/投げ込み
27	3人打ち込み/投げ込み
28	復習
29	復習
30	テスト 背負い投げ/払い腰

科目名	保健体育Ⅱ（柔道）：実技	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	(1)「礼に始まり、礼に終わる」柔道の精神及び技術を学びことで、人間性を磨く。 (2)柔道を通じて国際化にも対応できる能力を養う。		
講義内容／前期			
1	投の形 浮落・背負投・肩車		
2	投の形 浮腰・払腰・釣込腰		
3	投の形 送足払・支釣込足・内股		
4	投の形 浮落・背負投・肩車		
5	投の形 浮腰・払腰・釣込腰		
6	投の形 送足払・支釣込足・内股		
7	投の形 総合		
8	投の形 総合		
9	投の形 総合		
10	投の形 総合		
11	投の形 認定実技対策		
12	投の形 認定実技対策		
13	投の形 認定実技対策		
14	投の形 認定実技対策		
15	投の形 認定実技対策		

科目名	保健体育Ⅱ（柔道）：実技	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	(1) 「礼に始まり、礼に終わる」柔道の精神及び技術を学びことで、人間性を磨く。 (2) 柔道を通じて国際化にも対応できる能力を養う。		
講義内容／後期			
16	投の形 認定実技対策		
17	投の形 認定実技対策		
18	投の形 認定実技対策		
19	投の形 認定実技対策		
20	投の形 認定実技対策		
21	投の形 認定実技対策		
22	乱取り		
23	乱取り		
24	乱取り		
25	講道館ルールでの試合		
26	講道館ルールでの試合		
27	講道館ルールでの試合		
28	講道館ルールでの試合		
29	まとめ①		
30	まとめ②		

科目名	スポーツトレーナー論:講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	60回
目標	運動の過剰によっておこる急性・慢性の内科的・整形外科的障害及び運動不足によっておこる生活習慣病の運動療法について、メディカルチェックから運動処方及び中高年・女性におけるスポーツ医学について学修し、運動指導者として基本的かつ現場に即した知識を身につけ、科学的・理論的思考力を育てる。さらに最新の治療等についても適宜紹介し、知識を身に付ける。		

#### 講義内容／前期

1	健康づくりの施策概論 1
2	健康づくりの施策概論 2
3	生活習慣病とメタボリックシンドローム 1
4	生活習慣病とメタボリックシンドローム 2
5	メディカルチェックについて 1
6	メディカルチェックについて 2
7	運動の持続と呼吸循環経路 1
8	運動の持続と呼吸循環経路 2
9	運動に伴う呼吸循環機能の適応 1
10	運動に伴う呼吸循環機能の適応 2
11	運動時の酸素利用 1
12	運動時の酸素利用 2
13	トレーニングによる呼吸循環系の適応 1
14	トレーニングによる呼吸循環系の適応 2
15	単関節と多関節 1
16	単関節と多関節 2
17	投げ動作と打動作の共通点 1
18	投げ動作と打動作の共通点 2
19	運動と流体力 1
20	運動と流体力 2
21	運動と蛋白質の代謝、カルシウム 1
22	運動と蛋白質の代謝、カルシウム 2
23	運動時におけるエネルギー源 1
24	運動時におけるエネルギー源 2
25	オフフィールド評価 足関節 1
26	オフフィールド評価 足関節 2
27	オフフィールド評価 膝関節 1
28	オフフィールド評価 膝関節 2
29	オフフィールド評価 膝関節 3
30	オフフィールド評価 膝関節 4

科目名	スポーツトレーナー論：講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	60回
目標	運動の過剰によっておこる急性・慢性の内科的・整形外科的障害及び運動不足によっておこる生活習慣病の運動療法について、メディカルチェックから運動処方及び中高年・女性におけるスポーツ医学について学修し、運動指導者として基本的かつ現場に即した知識を身につけ、科学的・理論的思考力を育てる。さらに最新の治療等についても適宜紹介し、知識を身に付ける。		
講義内容／後期			
31	無/有酸素性能力の測定 1		
32	無/有酸素性能力の測定 2		
33	最大酸素摂取量の測定 1		
34	最大酸素摂取量の測定 2		
35	体脂肪量の測定 1		
36	体脂肪量の測定 2		
37	体力テストの評価 1		
38	体力テストの評価 2		
39	トレーニングの原則 1		
40	トレーニングの原則 2		
41	運動プログラム作成上のポイント 1		
42	運動プログラム作成上のポイント 2		
43	ウォーミングアップ/クールダウン 1		
44	ウォーミングアップ/クールダウン 2		
45	有酸素性運動とその効果 1		
46	有酸素性運動とその効果 2		
47	レジスタンス運動とその効果 1		
48	レジスタンス運動とその効果 2		
49	各種トレーニングとその効果 1		
50	各種トレーニングとその効果 2		
51	健康づくりのための栄養戦力 1		
52	健康づくりのための栄養戦力 2		
53	運動能力と栄養 1		
54	運動能力と栄養 2		
55	肥満になるメカニズム 1		
56	肥満になるメカニズム 2		
57	個別指導における動機づけとカウンセリング 1		
58	個別指導における動機づけとカウンセリング 2		
59	運動中止の判定 1		
60	運動中止の判定 2		

科目名	解剖学 I (概論・内臓) : 講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	(1)解剖学を理解させ他の基礎分野、臨床分野の基礎を修得する。 (2)体内諸臓器の構造、配置およびそれらの相互関係について修得する。 (3)各臓器を構成する細胞などのミクロ的な知識を加え身体内での位置・形態などを勉強し臓器と臓器の相互関係も修得する。		

講義内容／前期

1	人体解剖学概説…意義と分類
2	人体解剖学概説…細胞及び組織（形態と内部構造）
3	人体解剖学概説…細胞及び組織（形態と内部構造）
4	人体解剖学概説…細胞及び組織（細胞分裂、特性）
5	人体解剖学概説…細胞及び組織（組織）
6	人体解剖学概説…細胞及び組織（分類、特性）
7	内臓系…消化器（消化器の働き、消化器の種類と分類）
8	内臓系…消化器（口、口腔腺、歯、舌）
9	内臓系…消化器（咽頭、食道、胃、小腸）
10	内臓系…消化器（大腸）
11	内臓系…消化器（肝臓と胆道）
12	内臓系…消化器（脾臓、腹膜）
13	内臓系…消化器のまとめ
14	内臓系…呼吸器（呼吸器の働き、外鼻と副鼻腔）
15	内臓系…呼吸器（咽頭、喉頭）

科目名	解剖学 I (概論・内臓) : 講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	(1) 解剖学を理解させ他の基礎分野、臨床分野の基礎を修得する。 (2) 体内諸臓器の構造、配置およびそれらの相互関係について修得する。 (3) 各臓器を構成する細胞などのミクロ的な知識を加え身体内での位置・形態などを勉強し臓器と臓器の相互関係も修得する。		
講義内容／後期			
16	内臓系…呼吸器 (前期呼吸器の確認)		
17	内臓系…呼吸器 (気管及び気管支)		
18	内臓系…呼吸器 (肺、胸膜、縦隔)		
19	内臓系…泌尿器 (泌尿器の働き、泌尿器、腎臓) ①		
20	内臓系…泌尿器 (泌尿器の働き、泌尿器、腎臓) ②		
21	内臓系…生殖器 (生殖器の働き、男性生殖器)		
22	内臓系…生殖器 (精巣と精巣上体)		
23	内臓系…生殖器 (精管、精嚢)		
24	内臓系…生殖器 (付属生殖器、陰茎と陰嚢)		
25	内臓系…生殖器 (女性生殖器、卵巣)		
26	内臓系…生殖器 (卵管、子宮、膣、外陰部、会陰)		
27	内分泌…内分泌 (内分泌の働き、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、胸腺)		
28	内分泌…発生 (人体の発生、各組織、器官の発生)		
29	感覺器…視覚器 (眼球、眼球付属器)		
30	感覺器…聴覚器及び平衡器 (外耳、中耳、内耳)		

科目名	解剖学II（骨学・筋学）（脈管・神経） 講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	8単位（II部は4単位）	授業回数	60回
目標	(1)ヒトの運動をつかさどる骨、関節、筋についてその構造、配置、部位的特徴を修得する。 (2)心臓、血管、脳脊髄、神経について、その構造、走行様式についての知識を修得する。		

講義内容／前期

1	骨の役割、分類、構造、骨の発生と成長	16	頭蓋…頭蓋冠、頭蓋底、内頭蓋底
2	骨表面の形状についての用語、骨の連結	17	頭蓋…頭蓋底（外頭蓋底）、頭蓋前面
3	脊柱…役割、構造、椎骨の基本構造、頸椎	18	頭蓋…頭蓋側面、頭蓋泉門
4	脊柱…胸椎、腰椎、仙骨・尾骨、脊柱の連結	19	骨格筋…総論
5	胸郭…構成（胸骨、肋骨）、連結	20	頭部の筋…表情筋、咀嚼筋
6	上肢骨…構成、肩甲骨、鎖骨	21	頸部の筋…浅頸筋、外側頸筋、前頸筋、後頸筋
7	上肢骨…上腕骨、橈・尺骨、手根骨、中手・指骨	22	胸部の筋…浅胸筋、深胸筋、横隔膜
8	上肢の関節…肩鎖・胸鎖関節、肩・肘関節	23	腹部の筋…前腹筋、側腹筋、後腹筋
9	上肢の関節…上・下橈尺関節、手根・手の関節	24	背部の筋…浅背筋、深背筋（第1層）、深背筋（第2層）
10	下肢骨…構成、寛骨、骨盤	25	上肢の筋…上肢帶の筋
11	下肢骨…大腿骨、脛・腓骨、足根骨、中足・足の指骨	26	上肢の筋…上腕の筋
12	下肢の関節…股関節、膝関節	27	上肢の筋…前腕の筋
13	下肢の関節…脛腓関節、距腿関節、足根・足の関節	28	上肢の筋…手の筋
14	頭蓋…脳頭蓋（前頭骨、前頂骨、後頭骨、側頭骨、蝶形骨、篩骨）	29	下肢の筋…下肢帶の筋
15	頭蓋…顔面頭蓋（下鼻甲介、涙骨、鼻骨、鋸骨、頬骨、上顎骨、口蓋骨、下顎骨、舌骨）	30	下肢の筋…大腿の筋、下腿の筋、足の筋

科目名	解剖学II（骨学・筋学）（脈管・神経） 講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	8単位（II部は4単位）	授業回数	60回
目標	(1)ヒトの運動をつかさどる骨、関節、筋についてその構造、配置、部位的特徴を修得する。 (2)心臓、血管、脳脊髄、神経について、その構造、走行様式についての知識を修得する。		

講義内容／後期

31	脈管系の総論…体・肺循環、血管の形態と構造	46	胎児循環、リンパ管系
32	心臓と構造、刺激伝導系	47	神経系の基礎…神経系の区分と特徴、神経組織
33	心臓の脈管、神経	48	神経系の基礎…灰白質、白質と神経節、根、中枢神経の区分
34	肺循環、体循環の動脈系…大動脈	49	神経系の基礎…脳室系、髄膜と脳脊髄液
35	体循環の動脈系…頭部、頸部の動脈	50	脳…終脳（大脑半球）
36	体循環の動脈系…上肢の動脈1	51	脳…間脳、中脳
37	体循環の動脈系…上肢の動脈2	52	脳…橋、延髄、小脳
38	体循環の動脈系…胸大動脈、腹大動脈1	53	脊髄…前根と後根、内部構造、中枢神経の血管
39	体循環の動脈系…腹大動脈2、骨盤の動脈	54	脊髄…伝導路（反射路、上行性伝導路1）
40	体循環の動脈系…下肢の動脈1	55	脊髄…伝導路（上行性伝導路2、下行性伝導路）
41	体循環の動脈系…下肢の動脈2	56	末梢神経…脳神経（I～VI）
42	体循環の静脈系…上大静脈（頭・頸部の静脈）	57	末梢神経…脳神経（VII～X II）
43	体循環の静脈系…上大静脈（上肢の静脈、奇静脈）	58	末梢神経…脊髄神経（脊髄神経後枝、頸神経叢、腕神経叢、胸神経叢）
44	体循環の静脈系…下大静脈（門脈、骨盤の静脈）	59	末梢神経…脊髄神経（腰神経叢、仙骨神経叢、陰部神経叢、尾骨神経、デルマーム）
45	体循環の静脈系…下大静脈（下肢の静脈）	60	自律神経…基礎、交感神経、副交感神経

科目名	生理学Ⅰ：講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト
単位数	8単位	授業回数	60回
目標	人体の生命現象の機序（生理機能）に関する基礎医学的知識を修得する。		

講義内容／前期

1 生理学の基礎（人体を構成する要素、ホメオスタシス、体の科学的構成）	17 循環の生理学（循環の調節）
2 生理学の基礎（体の科学的構成、細胞の機能的構造）	18 循環の生理学（局所循環、脳脊髄液循環）
3 生理学の基礎（細胞の機能的構造）	19 呼吸の生理学（機能的構造、換気）
4 生理学の基礎（拡散、浸透、濾過）	20 呼吸の生理学（肺胞内圧と胸膜腔内圧、換気量と残気量）
5 生理学の基礎（受動輸送と能動輸送、エンドサイトーシス・エクソサイトーシス）	21 呼吸の生理学（肺胞換気量、呼吸の仕事、ガス交換）
6 血液の生理学（血液の役割、血液の組成）	22 呼吸の生理学（血液中の酸素、二酸化炭素運搬、呼吸を調節するしくみ）
7 血液の生理学（免疫機能）	23 呼吸の生理学（肺換気量の調節、呼吸の異常、人工呼吸）消化と吸收（消化管運動）
8 血液の生理学（血液型）	24 消化と吸收（消化液の分泌機序、消化）
9 血液の生理学（血液の凝固）	25 消化と吸收（吸収、消化管ホルモン）
10 循環の生理学（心臓の機能）	26 消化と吸收（肝臓と胆道系）栄養と代謝（代謝）
11 循環の生理学（心臓の基本的性質）	27 栄養と代謝（代謝、中間代謝、エネルギー代謝）
12 循環の生理学（心臓の基本的性質）	28 体温とその調節（体温の生理的変動、熱の產生）
13 循環の生理学（心電図、心臓のポンプ機能）	29 体温とその調節（熱放散、調節、発熱、馴化）
14 循環の生理学（血管系、血圧）	30 まとめ

科目名	生理学 I : 講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	8単位	授業回数	60回
目標	人体の生命現象の機序（生理機能）に関する基礎医学的知識を修得する。		
講義内容／後期			
31	体温とその調節	46	神経の基本的構造（不応期、イオンチャネル）
32	尿の生成と排泄（腎の構造と機能、糸球体濾過）	47	神経の基本的構造（興奮の伝導、興奮の伝達）
33	尿の生成と排泄（糸球体濾過、尿細管における再吸収）	48	神経系の機能（神経系の成り立ち）
34	尿の生成と排泄（水の再吸収と排泄、尿の成分、排尿）	49	神経系の機能（内臓機能の調節、内臓機能の視床下部による調節、姿勢と運動調節）
35	内分泌の機能（内分泌腺、ホルモンの一般的性質、種類と作用、視床下部ホルモン）	50	神経系の機能（骨格筋の感覺器、脊髄反射、脳幹反射）
36	内分泌の機能（下垂体、甲状腺）	51	神経系の機能（小脳と大脳基底核、高次機能）
37	内分泌の機能（副腎皮質）	52	神経系の機能（高次機能）
38	内分泌の機能（副腎髄質、膵臓、精巣、卵巣）	53	筋肉の機能（筋肉の種類、構造、しくみ）
39	生殖（性染色体、性分化、精子形成、勃起射精）	54	筋肉の機能（筋収縮エネルギー、熱発生、平滑筋、心筋）
40	生殖（女性生殖器、卵巣周期、月経周期、妊娠分娩、乳汁分泌）	55	感覚の生理学（感覚の種類、体性感覚）
41	骨の生理学（構造、形成と成長、再吸収再形成、カルシウム代謝）	56	感覚の生理学（深部感覚、内臓感覚、嗅覚、味覚）
42	骨の生理学（ビタミンD、上皮小体ホルモン、カルシトニン）体液の生理学	57	感覚の生理学（聴覚）
43	神経の基本的構造（静止膜電位、活動電位）	58	感覚の生理学（視覚）
44	神経の基本的構造（閾刺激、全か無かの法則）	59	感覚の生理学（前庭感覚）
45	まとめ	60	まとめ

科目名	生理学II:講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	老年期にみられる障害の特性を理解するため、老化のメカニズムや高齢者の生理的特性を修得する。		
講義内容／前期			
1	総論1：老化と老年病の考え方		
2	総論2：加齢に伴う生理機能変化		
3	総論3：高齢者に多い症候とそのアセスメントについて		
4	総論4：老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化と高齢者へのアプローチ		
5	総論5：高齢者の医療、介護、福祉、ターミナルケア		
6	各論1：精神機能の老化と精神疾患（うつ状態、せん妄、認知症、その他）		
7	各論2：心、血管機能の老化と循環器疾患（心不全、末梢循環障害、その他）		
8	各論3：呼吸機能の老化と呼吸器疾患（誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患、その他）		
9	各論4：消化機能の老化と消化器疾患（摂食、嚥下障害、消化器癌、その他）		
10	各論5：腎機能、内分泌、代謝機能の老化と疾患（腎不全、老尿病）		
11	各論6：加齢による免疫機能の変化、高齢者の感染症		
12	各論7：骨、運動器の老化と疾患1（骨粗鬆症、骨折）		
13	各論8：骨、運動器の老化と疾患2（変形、歩行障害）		
14	各論9：感覚機能の老化と疾患		
15	各論10：泌尿器の老化と疾患		

科目名	生理学II:講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	競技者（アスリート）にみられる障害の特性を理解するために、競技者特有の生理的特性を修得する。		

講義内容/後期

16	レジスタンスエクササイズのバイオメカニクス1
17	レジスタンスエクササイズのバイオメカニクス2
18	レジスタンスエクササイズのバイオメカニクス3
19	無酸素トレーニングプログラムへの適応
20	無酸素トレーニングプログラムへの適応
21	無酸素トレーニングプログラムへの適応
22	有酸素性持久力トレーニングプログラムによる適応
23	有酸素性持久力トレーニングプログラムによる適応
24	有酸素性持久力トレーニングプログラムによる適応
25	競技準備とパフォーマンスの生理学1
26	競技準備とパフォーマンスの生理学2
27	競技準備とパフォーマンスの生理学3
28	パフォーマンスを増強させる物質物質1
29	パフォーマンスを増強させる物質物質2
30	パフォーマンスを増強させる物質物質3

科目名	運動学:講義	開設時期	通年
学 年	2年	評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	運動器の構造と機能を諸原理から理解し、柔道整復師として運動器の治療ができる知識と能力を養う。		

#### 講義内容／前期

1	運動学の目的、運動学の表し方
2	身体運動と力学1
3	身体運動と力学2、運動器の構造と機能1
4	運動器の構造と機能2、神経の構造と機能
5	運動感覚、反射と随意運動
6	姿勢
7	歩行
8	運動発達、運動学習
9	上肢帯の運動、肩関節の運動
10	肘関節と前腕の運動、手関節と手の運動
11	股関節の運動、膝関節の運動
12	足関節と足部の運動、体幹と脊柱の運動
13	頸椎の運動、胸椎と胸郭の運動、腰椎と仙椎の運動
14	骨盤の運動
15	顔面と頭部の運動

科目名	運動学:講義	開設時期	通年
学 年	2年	評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	運動器の構造と機能を諸原理から理解し、柔道整復師として運動器の治療ができる知識と能力を養う。		

講義内容／後期

16	スポーツ医学(概論)
17	メディカルチェック(内科、外科)
18	疾病を有する者の運動許可条件
19	スポーツ心理学(概論)
20	スポーツ外傷・障害(概論)
21	野球肩
22	野球肘
23	骨盤の障害
24	ヒップポインター
25	ジャンパー膝
26	ランナー膝
27	オスグットシュラッター病
28	シンスプリント
29	下腿疲労骨折
30	まとめ

科目名	病理学概論:講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	疾病についての基礎知識を修得し、臨床の場で診断・治療・予防などで応用できる理解力や判断力を養う。		

#### 講義内容／前期

1	病理学、分子生物学的方法
2	疾病の一般、疾病的意義と分類、商工の意義と分類、疾病的経過、細胞傷害（萎縮）
3	細胞傷害（萎縮、変性、尿酸・カルシウム代謝異常）
4	細胞傷害（色素代謝異常～各臓器の老化）
5	細胞傷害（老化～うつ血）
6	循環障害（下肢のうつ血～出血後の結果）
7	循環傷害（血栓症～浮腫）
8	循環障害（脱水症）、進行性病変（不安定細胞）
9	進行性病変（再生～再生医学）
10	進行性病変（脳死判定）～炎症（炎症メディエーター）
11	炎症（組織増生）～梅毒
12	炎症（ハンセン病）～免疫（ナチュラル細胞）
13	免疫（NKTリンパ球～関節リウマチ）
14	免疫（自己免疫疾患～アレルギーIV型）
15	まとめ

科目名	病理学概論：講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	疾病についての基礎知識を修得し、臨床の場で診断・治療・予防などで応用できる理解力や判断力を養う。		

講義内容／後期

16	免疫（アレルギーV）腫瘍（細胞骨格）
17	腫瘍（腫瘍マーカー～がんの外因）
18	腫瘍（発がんの原因～手術療法）
19	腫瘍（腫瘍の分類）
20	腫瘍（主要な癌）
21	先天性異常
22	先天性異常（奇形の原因、奇形の種類）
23	病因（免疫、ストレス）～物理的外因（機械的損傷）
24	病因（温度～化学的病因）
25	病因（生物学的外因～感染）
26	病因（MRSA）～運動器の病理（巨細胞腫）
27	運動器の病理（骨軟骨腫～モルキオ病）
28	運動器の病理（先天性骨疾患～レイノ一症候群）
29	運動器の病理（レイノ一症候群～脊髄損傷）
30	まとめ

科目名	一般臨床医学：講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	(1)西洋医学的な観点から、病歴の取り方、各種診察法、理学的検査法について修得する。 (2)系統ごとに各種疾病の概要について修得し、患者の病態が柔整治療に適応か不適応かが判別でき、治療に際して適切な診察のもとに、効果的な治療ができる知識と能力を養う。		
講義内容／前期			
1	診察の意義、診察の進め方		
2	問診（問診の意義と方法）		
3	視診（視診の意義と方法、体格・体型）		
4	精神状態（意識状態）		
5	異常運動（不随意運動、運動失調）、歩行		
6	皮膚の状態（色調、性状の変化）		
7	頭部、顔面の視診、頸部の視診		
8	胸部、腹部、背部、腰部の視診		
9	四肢の視診		
10	打診（打診の意義と方法、打診音の種類、胸腹部の打診）		
11	聴診（聴診の意義と方法、肺の聴診）		
12	心臓、腹部の聴診		
13	触診（触診の意義と方法、各部の触診）		
14	胸部・腹部の触診、リンパ節の触診		
15	生命徵候（体温、血圧、脈拍、呼吸）		

科目名	一般臨床医学:講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	(1) 西洋医学的な観点から、病歴の取り方、各種診察法、理学的検査法について修得する。 (2) 系統ごとに各種疾病の概要について修得し、患者の病態が柔整治療に適応か不適応かが判別でき、治療に際して 適切な診察のもとに、効果的な治療ができる知識と能力を養う。		
講義内容／後期			
16	知覚検査（意義と方法、表在・深部・複合の検査）		
17	反射検査（反射の種類、意義）、表在・深部反射		
18	病的反射、クローヌス、自律神経反射		
19	代表的な臨床症状（発熱、出血傾向、リンパ節腫脹）		
20	意識障害、チアノーゼ		
21	関節痛、浮腫、肥満、やせ（病態生理、対策）		
22	生命徵候の測定、生理・検体・運動機能検査		
23	呼吸器疾患（総論、各概論）		
24	循環器疾患（総論、各概論）		
25	消化器疾患（総論、各概論）		
26	肝・胆・脾疾患（総論、各概論）		
27	代謝・栄養疾患（総論、各概論）		
28	内分泌疾患（総論、各概論）		
29	血液・造血器疾患、腎・尿路疾患（総論、各概論）、神経疾患（総論、各概論）、筋疾患、頸椎疾患		
30	感染症・性病（総論、各概論） リウマチ性疾患、アレルギー性疾患・免疫不全症、環境要因による疾患		

科目名	外科学概論：講義	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位 (II部は2単位)	授業回数	30回
目標	代表的な外科疾患を勉強することで、発症原因・検査・治療方法などの知識を正しく理解し、治療に関する知識を修得する。		
講義内容／前期			
1	外科学とは (外科学の歴史、外科医の立場)		
2	損傷 (損傷の分類、機械的損傷 1)		
3	損傷 (機械的損傷 2)		
4	損傷 (非機械的損傷～熱傷)		
5	外傷 (交通外傷、頭部外傷、頸部外傷、胸部外傷、腹部外傷)		
6	炎症 (感染発生のメカニズム 1)		
7	炎症 (感染発生のメカニズム 2)		
8	腫瘍 (概念、組織形態、成因、主な良性腫瘍の種類、悪性腫瘍の種類、悪性腫瘍の病態、TMN分類など)		
9	ショック (歴史、定義、分類、症状、診断、ショックと多臓器不全、患者到着時の処置、ショックの治療)		
10	輸血 (輸血、一般輸血、高カロリー輸液)		
11	滅菌法と消毒法 (手術器具・材料の滅菌、術者の手指の消毒、患者の皮膚・粘膜の消毒)		
12	手術		
13	麻酔		
14	移植と免疫		
15	出血と止血		

科目名	外科学概論:講義	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位 (Ⅱ部は2単位)	授業回数	30回
目標	代表的な外科疾患を勉強することで、発症原因・検査・治療方法などの知識を正しく理解し、治療に関する知識を修得する。		
講義内容／後期			
16	蘇生術		
17	脳神経外科疾患 1 (頭部の構造、神経系、血管系、脳室・脳槽・脳脊髄液、頭蓋内の主要病態)		
18	脳神経外科疾患 2 (検査、主な神経系疾患)		
19	脳神経外科疾患 3 (頭部外傷)		
20	胸壁・肺・縦隔疾患 1 (構造と機能、問診と身体所見、症候、胸郭・肺の検査、手術、胸壁疾患)		
21	胸壁・肺・縦隔疾患 2 (胸膜疾患、肺疾患、縦隔疾患、胸部損傷)		
22	乳腺疾患		
23	心臓疾患		
24	脈管疾患		
25	腹部外科疾患 (消化器の解剖と整理、主要徵候と病態生理、消火器疾患に対する主な検査)		
26	代表的腹部外科疾患		
27	国家試験対策①		
28	国家試験対策②		
29	国家試験対策③		
30	国家試験対策④		

科目名	整形外科学・講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	整形外科の疾患の判断を適切にできるように、各疾患の概要と症状などの正確な知識を修得する。		
講義内容／前期			
1	運動器の知識（骨の基礎知識）		
2	運動器の知識（筋、靭帯の基礎知識）		
3	整形外科診察（姿勢・四肢のバランス）		
4	整形外科検査（X線撮影・関節造影）		
5	整形外科検査（筋電図）		
6	整形外科治療法（保存療法）		
7	整形外科治療法（観血的治療）		
8	骨・関節損傷（骨折総論）		
9	骨・関節損傷（関節の損傷）		
10	スポーツ整形外科（スポーツ外科・障害）		
11	疾患別各論（感染症疾患）		
12	疾患別各論（骨・軟部腫瘍）		
13	疾患別各論（非感染症軟部・関節疾患）		
14	疾患別各論（全身性の骨・軟部疾患）		
15	疾患別各論（骨端症、四肢循環障害）		

科目名	整形外科学:講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位 (Ⅱ部は2単位)	授業回数	30回
目標	整形外科の疾患の判断を適切にできるように、各疾患の概要と症状などの正確な知識を修得する。		
講義内容／後期			
16	疾患別各論（神経・筋疾患）		
17	身体部位別各論（頸部疾患）		
18	身体部位別各論（胸部疾患）		
19	身体部位別各論（腰部疾患）		
20	身体部位別各論（肩甲帶疾患）		
21	身体部位別各論（肩甲帶疾患）		
22	身体部位別各論（上腕・肘関節疾患）		
23	身体部位別各論（上腕・肘関節疾患）		
24	身体部位別各論（前腕機能解剖・損傷）		
25	身体部位別各論（手関節機能解剖・損傷）		
26	身体部位別各論（手・指の機能解剖・損傷）		
27	身体部位別各論（骨盤・股関節疾患）		
28	身体部位別各論（骨盤・股関節疾患）		
29	身体部位別各論（大腿・膝関節疾患）		
30	身体部位別各論（下腿・足関節疾患、足・足趾疾患）		

科目名	リハビリテーション医学:講義	開設時期	通年
学 年	3年	評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト
単位数	4単位(Ⅱ部は2単位)	授業回数	30回
目標	国際的な障害に対する考え方を理解し、リハビリテーションとは単に治療するのではなく、障害を持つ人に対する人権も含んだ「全人的アプローチ」であることを学び、障害に対しての理解力・判断力を養う。		
講義内容／前期			
1	各組織の損傷(肘関節周囲)		
2	各組織の損傷(手関節周囲)		
3	各組織の損傷(手部)		
4	リハビリテーションの概念と歴史		
5	障害学(拘縮, 関節変形)		
6	障害学(筋萎縮, 神経麻痺)		
7	治療学(拘縮の治療, 筋力増強訓練)		
8	治療学(バイオフィードバック, 痛みの治療)		
9	評価と診断(身体計測, ROM, MMT)		
10	評価と診断(中枢性運動障害, 痙攣)		
11	評価と診断(小児の運動発達)		
12	評価と診断(運動失調)		
13	評価と診断(失認, 失行)		
14	評価と診断(心理評価)		
15	評価と診断(ADL評価)		

科目名	リハビリテーション医学:講義	開設時期	通年
学 年	3年	評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト
単位数	4単位(Ⅱ部は2単位)	授業回数	30回
目標	国際的な障害に対する考え方を理解し、リハビリテーションとは単に治療するのではなく、障害を持つ人に対する人権も含んだ「全人的アプローチ」であることを学び、障害に対しての理解力・判断力を養う。		
講義内容／後期			
16	理学療法(運動療法)		
17	理学療法(物理療法)		
18	作業療法		
19	補装具(上肢, 下肢)		
20	補装具(上肢, 下肢, 体幹)		
21	自動具, 介助器機, 言語治療(構音障害, 失語症)		
22	言語治療(構音障害, 失語症), リハ関連職種		
23	脳卒中		
24	脊髄損傷		
25	脳性麻痺, 二分脊椎, 筋ジス, 血友病		
26	熱傷, 心疾患, 切断, 末梢神経損傷		
27	RA, 整形外科疾患, 心疾患		
28	呼吸器疾患, 老人リハ, 制度論		
29	正常歩行		
30	まとめ		

科目名	柔道整復術の適応：講義	開設時期	後期
学年	3年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	2単位	授業回数	15回
目標	柔道整復術の適応とされる症状と内科的疾患の症状の鑑別方法を学び、柔道整復が適応されるか否かの判断能力を養う。		

講義内容／後期

1	腰痛1：悪性腫瘍、子宮筋腫
2	腰痛2：腎、尿路結石、胃十二指腸潰瘍
3	肩こり：リウマチ、心筋梗塞
4	股関節痛：大腿骨頭壞死
5	全身疲労、成長痛：白血病
6	打撲：コンパートメント症候群、アキレス腱断裂、蜂窩織炎
7	膝水腫：化膿性関節炎
8	股関節痛：子宮内膜症
9	頭部打撲：急性硬膜外血腫
10	骨粗鬆症：クッシング症候群、多発性骨髄腫
11	足がつる：摂食障害、ギランバレー症候群
12	右の手足が麻痺する：脳梗塞
13	肩が痛い：悪性腫瘍、ALS
14	足が痛い：バージャー病、全身性エリテマトーデス、痛風
15	関節痛：痛風、子宮内膜症（股関節）

科目名	柔道論：実技	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	定期試験
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	柔道整復の源を学ぶとともに、健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成する。		
講義内容／前期			
1	柔道の始まり		
2	柔道の流派		
3	柔道の教え 精力善用・自他共栄		
4	柔道のトレーニング理論		
5	補強トレーニング		
6	受け身		
7	柔道の寝技理論		
8	固め技1		
9	固め技2		
10	高専柔道の歴史		
11	補強トレーニング		
12	打ち込み		
13	3人打ち込み		
14	3人打ち込み		
15	まとめ		

科目名	柔道論:実技	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	定期試験
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	柔道整復の源を学ぶとともに、健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成する。		
講義内容／後期			
16	柔道のルール		
17	柔道の世界史		
18	柔道の立技理論		
19	投の形		
20	投の形		
21	投の形		
22	柔道の怪我予防理論		
23	投の形 総合 寝技・乱取		
24	投の形 総合 寝技・乱取		
25	投の形 総合 寝技・乱取		
26	柔道の試合研究		
27	投の形 総合 寝技・乱取		
28	投の形 総合 寝技・乱取		
29	投の形 総合 寝技・乱取		
30	まとめ		

科目名	関係法規:講義	開設時期	前期
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	1単位	授業回数	8回
目標	柔道整復師法を中心に医師法・医療法などの内容を理解し、柔道整復師が果たす役割について学ぶ。		
講義内容／前期			
1	社会福祉関係法規、社会保障制度の現状		
2	序論 法の意義へ 柔道整復師及び柔道整復に関する法規 柔道整復師法とその関連内容 第1章 総則		
3	柔道整復師法とその関連内容 第2章 免許 資格要件～免許の申請 免許つづき 柔道整復師名簿～免許の取消等		
4	免許つづき 柔道整復師免許証～免許証～免許証の返納or提出 第3章 柔道整復師試験		
5	第4章 業務 業務の禁止～外科手術・薬品投与の禁止 業務つづき 診療放射線の扱い～緊急時における厚労大臣の事務執行		
6	第5章 施術所 施術所の届出～施術所の使用制限等 第6章 雜則 広告 広告の制限～名称の制限		
7	第7章 帰則 第8章 指定登録機関及び指定試験機関 医療従事者の身分関係法 医師法を中心に		
8	医師法 薬事法規 衛生関係法規 社会保険関係法規 施術所開設のシミュレーション		

科目名	公衆衛生学・講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	国民の健康医療福祉の増進のために、健康とは何かを理解し、人間を取りまく環境・社会的要因などに存在する危険因子と人の健康増進、疾患予防などの関わりについて理解し、また個人と集団の健康概念が構築できるよう知識を修得する。		
講義内容／前期			
1	衛生学・公衆衛生学野歴史と公衆衛生活動		
2	健康の概念		
3	疾病と健康管理		
4	感染症の予防（感染症とは）		
5	感染症の予防（細菌感染症）		
6	消毒（消毒とは）		
7	消毒（消毒法の応用）		
8	環境保健（環境とは）		
9	環境保健（環境の把握）		
10	環境保健（化学的環境要因）		
11	環境保健（空気の衛生と大気汚染）		
12	母子保健、母と子のかかわり		
13	小児保健		
14	学校保健		
15	保険教育		

科目名	公衆衛生学:講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	国民の健康医療福祉の増進のために、健康とは何かを理解し、人間を取りまく環境・社会的要因などに存在する危険因子と人の健康増進、疾患予防などとの関わりについて理解し、また個人と集団の健康概念が構築できるよう知識を修得する。		
講義内容／後期			
16	産業保険（産業保険の目的）		
17	産業保険（作業条件による健康障害）		
18	成人・老人保険（成人・老人の健康状態）		
19	成人病・老人保健（糖尿病）		
20	精神保健		
21	生活環境・食品衛生活動（水の衛生と水質汚染）		
22	生活環境・食品衛生活動（住居）		
23	生活環境・食品衛生活動（食品衛生活動）		
24	地域保健と国際保健（地域保健とは）		
25	地域保健と国際保健（保健に関する国際協力と世界保健機関）		
26	衛生行政と保健医療制度（衛生行政の考え方）		
27	衛生行政と保健医療制度（保健医療行政の財政）		
29	衛生行政と保健医療の制度（公費医療）		
29	疫学とは		
30	疫学調査：悉皆調査と標本調査 相対危険度と寄与危険度（コホート研究、患者-対照研究）		

科目名	職業倫理:講義	開設時期	前期
学年	1年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	15回
目標	柔道整復師の倫理観を学ぶことにより、崇高的な倫理観をもって業を遂行する柔道整復師を養成する。		
講義内容／前期			
1	職業倫理とは		
2	現代的倫理観		
3	インフォームドコンセント		
4	守秘義務		
5	医療契約		
6	医療事故とその対応		
7	患者からの暴行・暴言を受けた際の対応		
8	施術料未払いの患者が再来院した場合の対応		
9	患者の個人情報保護		
10	SNS等での業務に関する情報発信での注意点		
11	医療における平等		
12	医療現場におけるコミュニケーション：信頼関係		
13	倫理原則（自律、善行、無危害、正義：誠実、忠誠）		
14	倫理的葛藤：判断基準		
15	療養費問題の特徴と論点		

科目名	医療概論:講義	開設時期	後期
学年	1年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	15回
目標	医療従事者の倫理、日本の医学と医療の歴史・現代医学と医療を中心に学習し、職業倫理および一般教養を身につける。		
講義内容／後期			
1	現代の医療制度 (1) 医療従事者と医療施設		
2	現代の医療制度 (2) 医療と医療経済		
3	現代の医療制度 (3) 医療保険の仕組み		
4	現代の医療制度 (4) 健康保険		
5	国民医療費の増大とそれに関する問題		
6	国民医療費、範囲		
7	国民医療費の増大とそれに関する問題		
8	公的医療負担、介護サービス行政		
9	日本の医学と医療の歴史		
10	因幡の鬼、古代の医学、医療令		
11	鑑真、平安時代、緒方洪庵		
12	中世の医学、近世の医学		
13	西洋医学内論争、現代医学医療		
14	医療従事者の倫理、解剖をめぐって、脚気をめぐる論争		
15	まとめ		

科目名	社会保障制度：講義	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4年	授業回数	30回
目標	柔道整復師として必要な社会保障制度についての知識を学び、健康や障害の状態に応じての社会資源を活用できる知識と基礎的な能力を修得する。		
講義内容／前期			
1	社会保障の3つの機能		
2	あるべき社会と今後の社会保障		
3	公的年金の意義		
4	公的年金制度の仕組み		
5	介護保険の意義と仕組み		
6	社会福祉・公的扶助・公衆衛生の意義と仕組み		
7	国民医療費の定義		
8	国民医療費の現状		
9	保険料率と消費税		
10	3種類の制度		
11	保険診療の仕組み		
12	2つの審査機関		
13	赤字基調の保険者		
14	医療費の三面分析		
15	療養の給付		

科目名	社会保障制度:講義	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4年	授業回数	30回
目標	柔道整復師として必要な社会保障制度についての知識を学び、健康や障害の状態に応じての社会資源を活用できる知識と基礎的な能力を修得する。		
講義内容／後期			
16	診療費の2つの顔		
17	療養費払い		
18	倫理と見識		
19	療養費：現物給付方式と現金給付		
20	療養費の支給条件		
21	療養費の額		
22	柔道整復療養費の歴史		
23	受領委任払いと償還払い		
24	柔道整復療養費の支給対象		
25	柔道整復療養費の推移		
26	柔道整復師の施術に係る療養費の料金		
27	初検料		
28	施術録について		
29	施術録への記載		
30	支給申請書作成		

科目名	基礎柔道整復学 I (総論・上肢) : 講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	柔道整復術の対象となる上肢の損傷について、発生機序から鑑別、治療、患者指導までの基礎的知識を修得する。		
講義内容／前期			
1	柔道整復師とは（概論）・人体に加わる力		
2	損傷に関する身体の基礎的状態・損傷時に加わる力		
3	各組織の損傷 骨の形態と機能～骨損傷の概説		
4	骨損傷の分類①		
5	骨損傷の分類②		
6	骨損傷の症状		
7	骨損傷の合併症①		
8	骨損傷の合併症②		
9	小児、高齢者骨損傷特徴		
10	骨損傷癒合日数（グルト）		
11	骨折治癒過程		
12	骨損傷予後		
13	骨損傷治癒に影響を与える因子		
14	治療法－整復法①		
15	治療法－整復法②		

科目名	基礎柔道整復学Ⅰ（総論・上肢）：講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	柔道整復術の対象となる上肢の損傷について、発生機序から鑑別、治療、患者指導までの基礎的知識を修得する。		
講義内容／後期			
16	鎖骨骨折		
17	鎖骨脱臼（胸鎖関節）		
18	鎖骨脱臼（肩鎖関節脱臼）		
19	肩甲骨骨折（肩甲骨骨体部骨折・上・下角骨折～鳥口突起骨折）①		
20	肩甲骨骨折（肩甲骨骨体部骨折・上・下角骨折～鳥口突起骨折）②		
21	上腕骨近位端部骨折①		
22	上腕骨近位端部骨折②		
23	上腕骨近位端部部骨折③		
24	上腕骨骨幹部骨折①		
25	上腕骨骨幹部骨折②		
26	肩関節脱臼①		
27	肩関節脱臼②		
28	肩関節脱臼③		
29	反復性肩関節脱臼①		
30	反復性肩関節脱臼②		

科目名	基礎柔道整復学Ⅱ(下肢・体幹):講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	柔道整復術の対象となる下肢・体幹の損傷について、発生機序から鑑別、治療、患者指導まで基礎的知識を修得する。		
講義内容／前期			
1	柔道整復術および柔道整復師の沿革		
2	関節の損傷（捻挫・脱臼）関節の構図と形態～ その他関節構成組織の損傷		
3	脱臼 脱臼の定義と概説①		
4	筋の損傷 腱の損傷、末梢神経損傷 血管系・リンパ系の損傷 皮膚の損傷		
5	評価、固定法、後療法		
6	指導管理 患者とその環境の把握		
7	頸部捻挫 頸部疾患		
8	胸肋関節損傷 肋間筋損傷 胸部・背部の打撲・胸背部の軟部組織損傷		
9	腰部の軟部組織損傷 腰部の疾患		
10	骨盤骨骨折		
11	股関節脱臼①		
12	股関節脱臼②		
13	大腿骨近位端部骨折 大腿骨骨頭部骨折～①		
14	大腿骨近位端部骨折 大腿骨骨頭部骨折～②		
15	大腿骨骨幹部骨折 大腿骨顆上骨折		

科目名	基礎柔道整復学Ⅱ(下肢・体幹):講義	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	柔道整復術の対象となる下肢・体幹の損傷について、発生機序から鑑別、治療、患者指導まで基礎的知識を修得する。		
講義内容／後期			
16	大腿部打撲 大腿部の肉離れ 大腿部骨化性筋炎①		
17	膝関節脱臼①		
18	膝関節の軟部組織損傷		
19	下腿近位端骨折①		
20	下腿骨幹部骨折①		
21	下腿遠位端骨折		
22	下腿の軟部組織損傷		
23	距腿関節の軟部組織損傷		
24	ショパール関節の軟部損傷～中足部痛		
25	足・足指骨骨折(足根骨骨折～足指骨骨折)		
26	距腿関節脱臼・足根骨間関節脱臼		
27	足部軟部組織損傷(距腿関節損傷～中足部痛)		
28	頭蓋骨骨折		
29	顎関節脱臼 顎関節症		
30	肋骨骨折・肋軟骨部骨折・胸骨骨折		

科目名	基礎柔道整復学III（外傷保存療法）：講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	外傷の保存療法について学び、柔道整復師として備えるべき外傷性疾患への対応能力を修得する。		
講義内容／前期			
1	概論：保存療法とは		
2	包帯法①：手～肘関節部の包帯、肘～肩関節部の包帯、足～膝関節部の包帯		
3	包帯法②：デゾー3・4帶、ウェルポー包帯、ジュール包帯		
4	骨折の保存療法①：鎖骨骨折の保存的整復法		
5	骨折の保存療法②：鎖骨骨折の保存的固定法		
6	骨折の保存療法③：上腕骨外科頸骨折の保存的整復法		
7	骨折の保存療法④：上腕骨外科頸骨折の保存的固定法		
8	骨折の保存療法⑤：Colles骨折の保存的整復法		
9	骨折の保存療法⑥：Colles骨折の保存的固定法		
10	脱臼の保存療法①：肩関節脱臼の保存的整復法		
11	脱臼の保存療法②：肩関節脱臼の保存的固定法		
12	脱臼の保存療法③：肩鎖関節脱臼の保存的整復法		
13	脱臼の保存療法④：肩鎖関節脱臼の保存的固定法		
14	脱臼の保存療法⑤：肩関節脱臼の保存的整復法		
15	脱臼の保存療法⑥：肩関節脱臼の保存的固定法		

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ（外傷保存療法）：講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1) 定期試験 (2) 小テスト
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	外傷の保存療法について学び、柔道整復師として備えるべき外傷性疾患への対応能力を修得する。		
講義内容／後期			
16	軟部組織の理解：軟部組織とは		
17	軟部組織保存療法の基礎知識：軟部組織保存療法の原則		
18	肩部の軟部組織損傷①：腱板損傷の保存療法		
19	肩部の軟部組織損傷②：上腕二頭筋長頭腱損傷の保存療法		
20	大腿部の軟部組織損傷：大腿部肉離れの保存療法		
21	膝部の軟部組織損傷①：膝側副靱帯損傷の保存療法		
22	膝部の軟部組織損傷②：十字靱帯損傷の保存療法		
23	膝部の軟部組織損傷③：半月板損傷の保存療法		
24	下腿部の軟部組織損傷①：腓腹筋肉離れの保存療法		
25	下腿部の軟部組織損傷②：アキレス腱断裂の保存療法		
26	足部の軟部組織損傷：足関節外側靱帯損傷の保存療法		
27	保存療法と観血療法①：保存療法と観血療法の比較		
28	保存療法と観血療法②：骨折の保存療法と観血療法の比較		
29	保存療法と観血療法③：脱臼の保存療法と観血療法の比較		
30	保存療法と観血療法④：軟部組織損傷の保存療法と観血療法の比較		

科目名	臨床柔道整復学 I (上肢):講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	上肢の脱臼、骨折に対する整復・固定をシミュレーションし、整復の理論、固定の理論を実技により修得する。		
講義内容／前期			
1	鎖骨骨折 (定型) 整復法、固定法		
2	上腕骨外科頸骨折 (外転型骨折)		
3	上腕骨外科頸骨折 (内転型骨折)		
4	上腕骨骨幹部骨折 固定～指導管理		
5	上腕骨顆上骨折 後療法～注意事項		
6	上腕骨外顆骨折 整復法～注意事項		
7	上腕骨内側上顆骨折		
8	橈骨近位端部骨折 整復法～注意事項		
9	肘頭骨折		
10	モンテギア(Monteggia)骨折 固定法～注意点		
11	前腕骨骨幹部骨折 固定法～注意事項		
12	コーレス(Colles)骨折 (橈骨遠位端骨端線離開)		
13	スミス(Smith)骨折 整復法～指導管理		
14	舟状骨骨折 整復法～予後		
15	中手骨頸部骨折 整復法～注意事項		

科目名	臨床柔道整復学 I (上肢):講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	上肢の脱臼、骨折に対する整復・固定をシミュレーションし、整復の理論、固定の理論を実技により修得する。		
講義内容／後期			
16	中手骨骨幹部骨折 整復～指導管理		
17	ベンネット (Bennett) 骨折		
18	基節骨骨幹部骨折 整復法～指導管理		
19	中節骨骨折 (頸部・骨幹部骨折) 整復法～指導管理		
20	肩鎖関節脱臼 整復法～指導管理		
21	肩関節脱臼 (前方脱臼) ヒポクラテス法		
22	肘関節脱臼 (後方脱臼) 整復法～指導管理		
23	肘内障		
24	第2中手指節関節脱臼 (Locking finger) 整復法～予後		
25	指節間関節脱臼(背側脱臼) 固定法～予後		
26	母指MP関節背側脱臼 整復法～予後		
27	肩腱板損傷 鑑別診断～全体プログラム		
28	上腕二頭筋長頭腱損傷 後療法～全体プログラム		
29	内側側副靱帯損傷(肘関節) 治療法～注意事項・予後		
30	槌趾(マレットフィンガー) 固定法～予後		

科目名	臨床柔道整復学Ⅱ（下肢）:講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	下肢の脱臼、骨折に対する整復・固定をシミュレーションし、整復の理論、固定の理論を実技により修得する。		
講義内容／前期			
1	大腿骨頸部骨折 整復・固定法		
2	大腿骨骨幹部骨折 整復・固定法		
3	膝蓋骨骨折 整復・固定法		
4	下腿骨骨幹部骨折 整復・固定法		
5	果部骨折（外転損傷） 整復・固定法		
6	果部骨折（内転損傷） 整復・固定法		
7	踵骨骨折（踵骨単独骨折） 整復・固定法		
8	中足骨骨折(第5中足骨基部裂離骨折) 整復・固定法		
9	足指骨折 整復・固定法		
10	股関節後方脱臼 整復・固定法		
11	膝蓋骨脱臼(側方脱臼) 整復・固定法		
12	足指脱臼 整復・固定法		
13	大腿四頭筋損傷 治療法～指導管理		
14	ハムストリングス損傷 治療法～指導管理		
15	膝関節側副靱帯損傷 治療法～指導管理		

科目名	臨床柔道整復学Ⅱ（下肢）：講義	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	下肢の脱臼、骨折に対する整復・固定をシミュレーションし、整復の理論、固定の理論を実技により修得する。	講義内容／後期	
16	膝関節前十字靱帯損傷 治療法～指導管理		
17	膝関節後十字靱帯損傷 治療法～指導管理		
18	半月板損傷		
19	半月板損傷 固定法～全体プログラム		
20	アキレス腱断裂 治療法～指導管理		
21	下腿三頭筋肉離れ 治療法～指導管理		
22	足関節周辺損傷 治療法～指導管理		
23	習慣性足関節亜脱臼 治療法～指導管理		
24	頸関節脱臼(前方脱臼) 整復法～注意事項		
25	U字ギプス固定法		
26	肉離れに対する固定法（バンテージ使用）		
27	肉離れに対するテーピング固定法		
28	MCL損傷 症状		
29	MCL損傷のテーピング固定法		
30	症例検討①		

科目名	臨床柔道整復学III（総合）：講義	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	鑑別する為のツールの使用法や全身状態のみかた、局所状態のみかたを修得する。		
講義内容／前期			
1	病歴のとり方		
2	診察の手順		
3	理学的診断にあたっての注意点		
4	全身状態の診察 1		
5	全身状態の診察 2		
6	局所状態の診察		
7	顔面の診察法		
8	顔面損傷の症状		
9	口の診察		
10	頭部の診察法		
11	頭部損傷の診察		
12	脈拍の診察法		
13	上肢の診察法		
14	手の診察法		
15	爪の診察法		

科目名	臨床柔道整復学III（総合）：講義	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	鑑別する為のツールの使用法や全身状態のみかた、局所状態のみかたを修得する。		

講義内容／後期

16	胸部の損傷
17	腹部の診察法
18	腹部鈍的外傷の症状
19	下肢の診察法
20	足部の診察法
21	神経系の診察法
22	頭部、顔面、表情
23	脳神経
24	頸部
25	上肢運動機能
26	起立、歩行
27	下肢運動機能
28	反射
29	感覚
30	まとめ

科目名	臨床柔道整復学IV :講義 (物理療法機器等の取扱)	開設時期	後期
学年	1年	評価方法	定期試験
単位数	1単位	授業回数	15回
目標	柔道整復領域で使用する物理療法機器等の原理、作用等を学び、その適切な取扱いに関する知識を修得する。		

講義内容／後期

1	概論：物理療法と物理療法機器
2	電気療法①：PNF（適応・禁忌・使用方法）
3	電気療法②：干渉波（適応・禁忌・使用方法）
4	電気療法③：SSP（適応・禁忌・使用方法）
5	電気療法④：総合電器治療器（適応・禁忌・使用方法）
6	寒冷療法：アイシング（適応・禁忌・使用方法）
7	光線療法：赤外線治療器（適応・禁忌・使用方法）
8	温熱療法①：マイクロ波治療器（適応・禁忌・使用方法）
9	温熱療法②：超音波治療器（適応・禁忌・使用方法）
10	温熱療法③：渦流浴療法（適応・禁忌・使用方法）
11	罨法①：冷罨法（適応・禁忌・使用方法）
12	罨法②：温罨法（適応・禁忌・使用方法）
13	間歇圧迫療法：メドマー（適応・禁忌・使用方法）
14	牽引療法①：頸椎介達牽引（適応・禁忌・使用方法）
15	牽引療法②：腰椎介達牽引（適応・禁忌・使用方法）

科目名	臨床柔道整復学V : 講義 (脊椎理論及びリハビリプログラム作成)	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	定期試験
単位数	4単位	授業回数	60回
目標	(1) 外傷後の機能低下に対する対処法を運動療法の考え方をもちいて検証する。 (2) 身体の各関節の機能を解説し、代表的疾患をケーススタディとして考察する。 (3) 安全な日常生活復帰のためのリハビリプログラムの作成し、それを実践する。		

講義内容／前期

1	姿勢の分析の基礎
2	姿勢分析から非荷重の判定
3	仙腸関節解剖学
4	仙腸関節運動学と触診
5	仙腸関節検査法と手技療法
6	仙腸関節凹凸理論・平面理論・軸
7	腰椎解剖学
8	腰椎運動学
9	腰椎偏位の考察
10	ハムストリングス検査
11	胸椎・胸郭解剖運動学
12	胸椎検査法と手技療法
13	姿勢全体と下肢
14	仙腸関節応用編
15	仙腸関節応用編
16	脳神経系と脊椎の関係
17	平衡系（小脳系）と脊椎の関係
18	感覺過敏・感覺鈍麻と脊椎の関係
19	姿勢全体と上肢
20	下部頸椎解剖
21	下部頸椎運動学と検査法
22	上部頸椎解剖
23	上部頸椎運動学
24	第1頸椎検査
25	姿勢全体から見た下肢運動学
26	姿勢全体から見た上肢運動学
27	頸椎実技
28	頸椎実技
29	腰椎実技
30	仙腸関節実技

科目名	臨床柔道整復学V : 講義 (脊椎理論及びリハビリプログラム作成)	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	定期試験
単位数	4単位	授業回数	60回
目標	(1) 外傷後の機能低下に対する対処法を運動療法の考え方をもちいて検証する。 (2) 身体の各関節の機能を解説し、代表的疾患をケーススタディとして考察する。 (3) 安全な日常生活復帰のためのリハビリプログラムの作成し、それを実践する。		

講義内容／後期

31	肩関節疾患 1 : 解剖と機能、肩の痛み
32	肩関節疾患 2 : 解剖と機能、肩の痛み
33	肩関節疾患 3 : 代表的疾患 (肩診療マニュアル)
34	肩関節疾患 4 : 代表的疾患 (肩診療マニュアル)
35	肩関節疾患 5 : 代表的疾患 (肩診療マニュアル)
36	肩関節疾患 6 : 代表的疾患 (肩診療マニュアル)
37	肩関節疾患 7 : 臨床実技 理学検査
38	肩関節疾患 8 : 臨床実技 ストレッチ 可動域訓練
39	肘関節疾患 1 : 解剖と機能、肘の痛み
40	肘関節疾患 2 : 代表的疾患 (肘診療マニュアル)
41	肘関節疾患 3 : 代表的疾患 (肘診療マニュアル)
42	肘関節疾患 4 : 代表的疾患 (肘診療マニュアル)
43	肘関節疾患 5 : 臨床実技 理学検査
44	肘関節疾患 6 : 臨床実技 ストレッチ 可動域訓練
45	手指関節疾患 1 : 解剖と機能
46	手指関節疾患 2 : 代表的疾患
47	手指関節疾患 3 : 代表的疾患
48	手指関節疾患 4 : 臨床実技 理学検査 可動域訓練
49	膝関節疾患 1 : 解剖と機能、膝の痛み
50	膝関節疾患 2 : 代表的疾患 (膝診療マニュアル)
51	膝関節疾患 3 : 代表的疾患 (膝診療マニュアル)
52	膝関節疾患 4 : 代表的疾患 (膝診療マニュアル)
53	膝関節疾患 5 : 臨床実技 理学検査
54	膝関節疾患 6 : 臨床実技 ストレッチ 可動域訓練
55	足関節疾患 1 : 解剖と機能、足関節の痛み
56	足関節疾患 2 : 代表的疾患 (足診療マニュアル)
57	足関節疾患 3 : 代表的疾患 (足診療マニュアル)
58	足関節疾患 4 : 代表的疾患 (足診療マニュアル)
59	足関節疾患 5 : 臨床実技 理学検査
60	足関節疾患 6 : 臨床実技 ストレッチ 可動域訓練

科目名	臨床柔道整復学VI :講義 (物理療法機器の応用法及び診察・観察)	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	4単位	授業回数	60回
目標	(1) 物理療法の基礎から柔道整復師が施術所で使用する物療機器の応用法について修得する。 (2) キネシオテープを利用し局所循環の改善・経皮的刺激・組織の柔軟性を改善し鎮痛効果を得る方法について修得する。		
講義内容／前期			
1	物理療法の歴史、意義		
2	電気治療の基礎、基礎的電気知識（電圧、電流、抵抗）		
3	極超短波療法の生理的作用		
4	極超短波の操作法、治療上の注意点		
5	電磁波照射療法（マイクロ波療法）の生理的作用		
6	電磁波照射療法（マイクロ波療法）の操作法、治療上の注意		
7	超音波療法の生理作用		
8	超音波療法の操作法、治療上の注意点		
9	電気治療の適応と禁忌		
10	光線療法の基礎		
11	光線療法の定義および分類		
12	光線療法の適応ならびに禁忌		
13	温熱・水治療法の生理的作用		
14	温熱・水治療法の生理的作用		
15	渦流浴、パラフィン浴の操作方法、治療上の注意		
16	物理療法としてのキネシオテーピング療法（キネシオテーピング効果）①		
17	物理療法としてのキネシオテーピング療法（キネシオテーピング効果）②		
18	キネシオテックスの扱い方		
19	基本練習① 三角筋（三角筋キネシオテーピング）		
20	基本練習② 仙棘筋（仙棘筋キネシオテーピング）		
21	手首の痛み・手、腕の痛みやしひれ（手首キネシオテーピング・上腕神経キネシオテーピング）		
22	肘の痛み・腱鞘炎（肘X字キネシオテーピング・長母指伸筋キネシオテーピング）		
23	五十肩に対するキネシオテーピング		
24	三角筋キネシオテーピング・上中僧帽筋キネシオテーピング・背筋クロスキネシオテーピング		
25	膝の痛みに対するキネシオテーピング		
26	大腿四頭筋キネシオテーピング・大腿二頭筋キネシオテーピング・半月板キネシオテーピング		
27	坐骨神経痛（I字型坐骨神経キネシオテーピング）		
28	捻挫・足のけいれん、疲れ（腓骨筋キネシオテーピング・腓腹筋キネシオテーピング）		
29	股関節痛（中殿筋キネシオテーピング）		
30	寝違え・不眠症（前斜角筋キネシオテーピング・I字型胸鎖乳突筋キネシオテーピング）		

科目名	臨床柔道整復学VI : 講義 (物理療法機器の応用法及び診察・視察)	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	4単位	授業回数	60回
目標	(1)物理療法の基礎から柔道整復師が施術所で使用する物療機器の応用法について修得する。 (2)キネシオテープを利用し局所循環の改善・経皮的刺激・組織の柔軟性を改善し鎮痛効果を得る方法について修得する。		

講義内容／後期

31	軟部組織損傷を理解するための組織の構造
32	筋損傷を理解するための筋の構造
33	骨損傷を理解するための骨の構造 1 (四肢骨)
34	骨損傷を理解するための骨の構造 2 (体幹・頭蓋骨)
35	骨の構造からみた骨折の好発部位
36	骨折時に関与する筋の理解 1 (上肢)
37	骨折時に関与する筋の理解 2 (下肢)
38	触診に必要な体表解剖理解 1 (上肢)
39	触診に必要な体表解剖理解 2 (下肢)
40	関節拘縮を理解するための関節の構造 1 (上肢)
41	関節拘縮を理解するための関節の構造 2 (下肢)
42	関節拘縮を理解するための関節の正常な動き 1 (上肢)
43	関節拘縮を理解するための関節の正常な動き 2 (下肢)
44	神経損傷を理解するための神経の基礎
45	中枢神経損傷を理解するための脳の構造
46	末梢神経損傷を理解するための末梢神経の構造 1 (上肢)
47	末梢神経損傷を理解するための末梢神経の構造 2 (下肢)
48	血管損傷を理解するための血管の基礎
49	血管損傷を理解するための血管の構造 1 (動脈系)
50	血管損傷を理解するための血管の構造 2 (静脈系)
51	顎関節脱臼時に必要な口腔内構造の理解
52	指導管理に必要な消化器系の理解 1 (食道～胃)
53	指導管理に必要な消化器系の理解 2 (小腸～大腸)
54	合併症の理解 1 腎損傷 (泌尿器系)
55	合併症の理解 2 骨盤骨折 (腹腔内臓器)
56	他科紹介時に必要な内分泌疾患の理解
57	顔面骨折時に必要な顔面構造の理解 1 (視覚器)
58	顔面骨折時に必要な顔面構造の理解 2 (聴覚器)
59	症例を基にした骨損傷の理解 1 (上肢)
60	症例を基にした骨損傷の理解 2 (下肢)

科目名	臨床柔道整復学VII（臨床的判定）：講義	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	医用画像の理解や臨床所見から判断して施術に適する損傷と適さない損傷を的確に判断できる技術を修得する。		

講義内容／前期

1	概論：柔道整復術とその適応とは
2	X線画像の理解：X線画像の性質と理解
3	CT画像の理解：CT画像の性質と理解
4	MRI画像の理解：MRI画像の性質と理解
5	超音波画像の理解：超音波画像の性質と理解
6	頭頸部の損傷①：頭部の損傷と柔道整復術の適応①
7	頭頸部の損傷②：頭部の損傷と柔道整復術の適応②
8	頭頸部の損傷③：頸部の損傷と柔道整復術の適応
9	上肢の損傷①：上肢帯部の損傷と柔道整復術の適応
10	上肢の損傷②：肩部の損傷と柔道整復術の適応
11	上肢の損傷③：上腕部の損傷と柔道整復術の適応
12	上肢の損傷④：肘部の損傷と柔道整復術の適応
13	上肢の損傷⑤：前腕部の損傷と柔道整復術の適応
14	上肢の損傷⑥：手部の損傷と柔道整復術の適応
15	上肢の損傷⑦：指部の損傷と柔道整復術の適応

科目名	臨床柔道整復学VII（臨床的判定）：講義	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	4単位	授業回数	30回
目標	医用画像の理解や臨床所見から判断して施術に適する損傷と適さない損傷を的確に判断できる技術を修得する。		
講義内容／後期			
16	体幹部の損傷①：胸部の損傷と柔道整復術の適応		
17	体幹部の損傷②：腹部の損傷と柔道整復術の適応		
18	体幹部の損傷③：背部の損傷と柔道整復術の適応		
19	体幹部の損傷④：腰部の損傷と柔道整復術の適応		
20	下肢の損傷①：骨盤部の損傷と柔道整復術の適応		
21	下肢の損傷②：股関節部の損傷と柔道整復術の適応		
22	下肢の損傷③：大腿部の損傷と柔道整復術の適応		
23	下肢の損傷④：膝関節部の損傷と柔道整復術の適応		
24	下肢の損傷⑤：下腿部の損傷と柔道整復術の適応		
25	下肢の損傷⑥：足関節部の損傷と柔道整復術の適応		
26	下肢の損傷⑦：足部の損傷と柔道整復術の適応		
27	下肢の損傷⑧：趾部の損傷と柔道整復術の適応		
28	ケーススタディ①：上肢の損傷		
29	ケーススタディ②：下肢の損傷		
30	ケーススタディ③：頭・頸・体幹部の損傷		

科目名	臨床柔道整復学Ⅷ（まとめ）：講義	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	4単位	授業回数	60回
目標	全11科目の重要項目を総復習し、柔道整復術に必要な知識をより深く修得する。		
講義内容／前期			
1	柔整理論 1	各組織の損傷 骨折	
2	柔整理論 2	各組織の損傷 関節の損傷	
3	柔整理論 3	検査計測	
4	柔整理論 4	固定・診察	
5	柔整理論 5	頭部・顔面・頸部の損傷	
6	柔整理論 6	胸部・体幹・脊椎の損傷	
7	柔整理論 7	鎖骨骨折・肩甲骨骨折・上腕骨骨頭骨折	
8	柔整理論 8	上腕骨解剖頸骨折・外科頸骨折	
9	柔整理論 9	近位骨端線離開・骨幹部骨折	
10	柔整理論 10	上腕骨遠位端部骨折・顆上骨折	
11	柔整理論 11	外果骨折・内側上顆骨折・肘頭骨折	
12	柔整理論 12	モンテギア・ガレアジ骨折	
13	柔整理論 13	前腕両骨骨幹部骨折・コーレス骨折・スミス	
14	柔整理論 14	手部の骨折	
15	柔整理論 15	鎖骨脱臼・肩関節脱臼・肘関節脱臼・手関節部の脱臼	
16	柔整理論 16	指関節の脱臼・上腕部の軟部組織損傷	
17	柔整理論 17	大腿骨近位端部骨折・大腿骨頭辺り症	
18	柔整理論 18	大腿骨骨幹部骨折・大腿骨遠位端部骨折	
19	柔整理論 19	膝蓋骨骨折・顆間隆起骨折	
20	柔整理論 20	下腿骨骨幹部骨折・果部骨折	
21	柔整理論 21	足関節部骨折	
22	柔整理論 22	下肢の脱臼	
23	柔整理論 23	下肢の脱臼	
24	柔整理論 24	下肢の軟部組織損傷	
25	柔整理論 25	下肢の軟部組織損傷	
26	柔整理論 26	必修対策 1	
27	柔整理論 27	必修対策 2	
28	柔整理論 28	必修対策 3	
29	柔整理論 29	必修対策 4	
30	柔整理論 30	必修対策 5	

科目名	固定学 I (包帯法):実技	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	柔道整復師が行う包帯固定法について学び、様々な外傷に必要な予防と治療の技術を修得する。		
講義内容／前期			
1	総論 1 包帯について 定義、目的、種類 材料、患者扱い、被覆包帯		
2	総論 2 卷軸帶とは、巻き方、基本形、通則		
3	三角巾 1 たたみ三角巾、提肘、三角筋の仕舞い方		
4	三角巾での足関節、手関節の固定		
5	指の包帯 1 隻指帯、指ほうか帯 ①		
6	指の包帯 1 隻指帯、指ほうか帯 ②		
7	指の包帯 2 全指帯、総指ほうか帯①		
8	指の包帯 2 全指帯、総指ほうか帯②		
9	指の包帯 3 不全指帯、指頭ほうか帯①		
10	指の包帯 3 不全指帯、指頭ほうか帯②		
11	手の包帯 上行麦穂帯、下行麦穂帯①		
12	手の包帯 上行麦穂帯、下行麦穂帯②		
13	前腕の包帯 螺旋帯、螺旋及び折転帯①		
14	前腕の包帯 螺旋帯、螺旋及び折転帯②		
15	復習、実技テスト		

科目名	固定学 I (包帯法) : 実技	開設時期	通年
学年	1年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	柔道整復師が行う包帯固定法について学び、様々な外傷に必要な予防と治療の技術を修得する。		
講義内容／後期			
16	肘関節部の包帯 離開亀甲帶		
17	集合亀甲帶		
18	肩甲関節と腋窩の包帯 上行麦穂帶①		
19	肩甲関節と腋窩の包帯 上行麦穂帶②		
20	下行麦穂帶		
21	さらし固定包帯 腰腹部の固定、折転なし及び折転有りの場合①		
22	さらし固定包帯 腰腹部の固定、折転なし及び折転有りの場合②		
23	胸部の包帯 胸十字帶、背十字帶①		
24	胸部の包帯 胸十字帶、背十字帶②		
25	胸部の包帯 2、提縛固定帶 1		
26	螺旋帶、デゾー I II 帯		
27	デゾー III 帯①		
28	デゾー III 帯②		
29	足部の包帯①		
30	足部の包帯②		

科目名	固定学Ⅱ(整復固定法):実技	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	各関節に対する基礎固定法を学び、様々な外傷に必要な予防と治療の技術を修得する。		
講義内容／前期			
1	肩関節の固定包帯①		
2	肩関節の固定包帯②		
3	胸部の固定包帯		
4	膝関節の固定包帯		
5	腰部の固定包帯（さらし）		
6	手関節の固定包帯		
7	肘関節の固定包帯		
8	母指の固定包帯		
9	足関節の固定包帯		
10	ホワイトテーピングの基礎①		
11	ホワイトテーピングの基礎②		
12	足関節の基礎テーピング①		
13	足関節の基礎テーピング②		
14	実技テスト包帯		
15	実技テストテーピング		

科目名	固定学Ⅱ(整復固定法):実技	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	各関節に対する基礎固定法を学び、様々な外傷に必要な予防と治療の技術を修得する。		
講義内容／後期			
16	肩関節脱臼の固定法①		
17	肩関節脱臼の固定法②		
18	膝関節の固定法①		
19	膝関節の固定法②		
20	胸部の固定法 (テーピング)		
21	腰部の固定法 (テーピング)		
22	手関節の固定法①		
23	手関節の固定法②		
24	肘関節の固定法①		
25	肘関節の固定法②		
26	母指の固定法①		
27	母指の固定法②		
28	足関節の固定法①		
29	足関節の固定法②		
30	足関節の固定法③		

科目名	柔道整復実技 I (臨床応用) : 実技	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	臨床でよく遭遇する疾患を学習し、基礎医学と臨床医学の内容について整理・統合し、臨床的観察能力、分析力を身に付ける。		
講義内容／前期			
1	各種 治療手技		
2	手技療法 概論		
3	軽擦法、強擦法、揉捏法、叩打法、振戦法、圧迫法、伸長法		
4	誘導マッサージ		
5	物理療法 概論		
6	筋ストリッピング療法		
7	関節モビライゼーション (関節包内運動)		
8	徒手牽引療法		
9	ストレッチ療法 (スタティックストレッチング)		
10	ストレッチ療法 (バリスティクストレ칭ング)		
11	ストレッチ療法 (ダイナミックストレッチング)		
12	ストレッチ療法 (ダイナミックストレッチング)		
13	PNFストレッチ		
14	マイオセラピー		
15	リンパドレナージュ		

科目名	柔道整復実技Ⅰ（臨床応用）：実技	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	臨床でよく遭遇する疾患を学習し、基礎医学と臨床医学の内容について整理・統合し、臨床的観察能力、分析力を身に付ける。		
講義内容／後期			
16	肩凝り（原因と治療法）		
17	肩凝り（マッサージ基本術式）		
18	肩関節周囲炎（石沈着性肩関節周囲炎・腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱炎・滑液包炎）		
19	肩関節モビリゼーション（肩甲胸郭関節）		
20	肩関節モビリゼーション（肩鎖関節・胸鎖関節）		
21	肩関節モビリゼーション（肩甲上腕関節）		
22	頸肩腕症候群		
23	胸郭出口症候群		
24	上肢に対する理学検査、神経学的検査		
25	腰の疾患（概説）		
26	下肢に対する理学検査、神経学的検査		
27	腰部・下肢痛（筋筋膜性腰痛・腰部椎間ヘルニア[坐骨神経痛]・梨状筋症候群・仙腸関節捻挫等）		
28	膝部の障害（変形性膝関節症・軟骨軟化症・オズグット）		
29	足部の障害（アキレス腱炎、扁平足、足底腱膜炎、外反母趾）		
30	カルテの書き方①		

科目名	柔道整復実技Ⅱ(スポーツ運動学):実技	開設時期	前期
学年	2年	評価方法	定期試験
単位数	1単位	授業回数	15回
目標	スポーツによる障害を競技、運動特性から捉え、スポーツ障害の治療や予防が行える技術を修得する。		
講義内容／前期			
1	スポーツテーピング 役割と効果 足関節基本		
2	スポーツテーピング 足関節ノーマル		
3	スポーツテーピング 足関節バリエーション		
4	スポーツテーピング 足裏部		
5	スポーツテーピング 膝関節ACL		
6	スポーツテーピング 膝関節MCL MM LM PCL		
7	スポーツテーピング 肩関節 脱臼予防		
8	スポーツテーピング 肘関節 手関節 指		
9	スポーツテーピング 腰部 背部		
10	スポーツテーピング 大腿部肉離れ		
11	エクササイズテクニック フォーム		
12	エクササイズテクニック スピードプライオメトリックス		
13	パートナーストレッチ 下肢		
14	パートナーストレッチ 上肢		
15	ウォーミングアップ、クーリングダウン		

科目名	柔道整復実技III（高齢者の外傷予防）	開設時期	後期
学年	2年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	15回
目的	高齢者に対する具体的な外傷予防の手法を身に着け、高齢者の外傷予防という社会的要請に対応できる臨床的観察能力を養う。		
講義内容／後期			
1	高齢者と傷害：高齢者に好発する傷害とその原因について		
2	発達と老化：人間の成長と発達、老化について		
3	認知症：認知症について		
4	ロコモティブシンドローム①：ロコモティブシンドロームとは		
5	ロコモティブシンドローム②：転倒予防について		
6	機能訓練指導員：機能訓練指導員とその業務内容		
7	機能訓練：機能訓練とは		
8	機能訓練で提供する運動と要点①：機能訓練の手順		
9	機能訓練で提供する運動と要点②：器具を用いない運動①		
10	機能訓練で提供する運動と要点③：器具を用いない運動②		
11	機能訓練で提供する運動と要点④：簡単な器具を用いて行う運動①		
12	機能訓練で提供する運動と要点⑤：簡単な器具を用いて行う運動②		
13	機能訓練で提供する運動と要点⑥：股関節の運動能力を高める運動		
14	機能訓練で提供する運動と要点⑦：身体各所の運動		
15	機能訓練で提供する運動と要点⑧：運動メニュー・運動プログラムの例		

科目名	柔道整復実技IV（競技者の外傷予防）：実技	開設時期	前期
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	15回
目的	競技者に対する具体的な外傷予防の手法を身に付け、競技者の外傷予防という社会的要請に対応できる臨床的観察能力を養う。		
講義内容／前期			
1	スポーツ障害とスポーツ外傷：スポーツ障害とスポーツ外傷の違いについて		
2	スポーツ科学①：スポーツのバイオメカニクス		
3	スポーツ科学②：トレーニングとその適応		
4	スポーツ科学③：スポーツ心理		
5	評価法①：競技者との面談と健康評価		
6	評価法②：体力評価		
7	評価法③：姿勢・動作評価		
8	エクササイズ①：柔軟性、自重、スタビリティトレーニングエクササイズ		
9	エクササイズ②：レジスタンストレーニングエクササイズ		
10	エクササイズ③：心臓血管系活動のテクニック		
11	プログラムデザイン①：レジスタンストレーニングのプログラムデザイン		
12	プログラムデザイン②：有酸素性持久力トレーニングのプログラムデザイン		
13	プログラムデザイン③：プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング		
14	特定の競技者への対応①：妊婦、高齢者、青年期直前期の競技者の特性と対応		
15	特定の競技者への対応②：疾患を患った競技者の特性と対応		

科目名	柔道整復応用実技 I (シミュレーション I) 実技	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	(1) 臨床でよく遭遇する疾患をシミュレートし、基礎医学と臨床医学の内容について整理・統合する。 (2) 整理・統合された疾患についての臨床的観察能力、分析力を養う。		
講義内容／前期			
1	各種 治療手技		
2	マッサージ 概論		
3	揉捏法～軽擦法		
4	揉捏法～軽擦法		
5	関節モビライゼーション (関節包内運動)		
6	関節モビライゼーション (関節包内運動)		
7	ストレッチ療法 (ボブアンダーソン)		
8	PNFストレッチ		
9	マイオセラピー		
10	リンパドレナージュ		
11	リンパドレナージュ		
12	テーピング療法		
13	クライオセラピー		
14	肩凝り (原因と治療法)		
15	肩凝り (マッサージ基本術式)		

科目名	柔道整復応用実技 I (シミュレーション I) 実技	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	(1) 臨床でよく遭遇する疾患をシミュレートし、基礎医学と臨床医学の内容について整理・統合する。 (2) 整理・統合された疾患についての臨床的観察能力、分析力を養う。		
講義内容／後期			
16	肩関節周囲炎（石沈着性肩関節周囲炎・腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱炎・滑液包炎）		
17	肩関節周囲炎（石沈着性肩関節周囲炎・腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱炎・滑液包炎）		
18	肩関節周囲炎（石沈着性肩関節周囲炎・腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱炎・滑液包炎）		
19	肩関節モビリゼーション（肩甲上腕関節）		
20	肩関節モビリゼーション（肩甲胸郭関節・肩鎖関節・胸鎖関節）		
21	頸肩腕症候群とはまたはそれに関するテスト法		
22	胸郭出口症候群・肋鎖症候群の説明		
23	手根管症候群とは原因と治療法		
24	腰の疾患（概説）		
25	腰部・下肢痛（筋筋膜性腰痛・腰部椎間ヘルニア[坐骨神経痛]・梨状筋症候群・仙腸関節捻挫等）		
26	腰部・下肢痛（上記の原因と手技療法又は指導）		
27	腰部・下肢痛（上記似対する手技療法実技[神経伸展法・除痛法]）		
28	膝部の障害（変形性膝関節症・軟骨軟化症・オズグット）		
29	膝部の障害（上記に対する原因と手技療法又は指導）		
30	膝部の障害（上記に対する手技療法実技[膝関節の運動法]）		

科目名	柔道整復応用実技Ⅱ（シミュレーションⅡ） 実技	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	(1) 不定愁訴に対する疾患をシミュレートし、考えられる疾患を列挙できるようにする。 (2) 考えられる疾患の中から、該当する疾患を特定できるように臨床に即した観察力・洞察力を養う。		
講義内容／前期			
1	胸痛（肋骨骨折・肋骨亀裂等の後遺症[肋間神経痛]の説明と肋間部のマッサージ実技）		
2	脊柱・骨に対する疾患（脊柱側湾症・脊椎炎）		
3	脊柱・骨に対する疾患（強直性脊椎炎・骨粗しょう症）		
4	脊柱・骨に対する疾患（上記に対する説明および予防と指導）		
5	脊柱・骨に対する疾患（上記背腰部のマッサージ実技）		
6	頸関節症の原因と治療法（指導）		
7	頸関節症に対するマッサージ（側頭部・頸骨部）		
8	ばね指・腱鞘炎（ドゥケルバン・アキレス腱炎）		
9	ばね指・腱鞘炎（上記に対する原因・予防・指導・治療）		
10	腰痛についての症例検討①		
11	腰痛についての問診、検査②		
12	腰痛についての問診、検査、治療		
13	腕が上がらない症例検討①		
14	腕が上がらない症例の問診、検査②		
15	腕が上がらない症例の治療③		

科目名	柔道整復応用実技Ⅱ（シミュレーションⅡ） 実技	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	(1) 不定愁訴に対する疾患をシミュレートし、考えられる疾患を列挙できるようにする。 (2) 考えられる疾患の中から、該当する疾患を特定できるように臨床に即した観察力・洞察力を養う。		

講義内容／後期

16	肘痛の症例の症例検討、問診、検査①
17	肘痛の症例の治療②
18	手のシビレの症例検討①
19	手のシビレの症例の問診、検査②
20	手のシビレの症例の治療③
21	膝痛の症例の症例検討①
22	膝痛の症例の問診、検査②
23	膝痛の症例の治療③
24	頸部痛の症例検討①
25	頸部痛の症例の問診、検査②
26	頸部痛の症例の治療③
27	足の痺れの症例検討①
28	足の痺れの症例の問診、検査②
29	足の痺れの症例の治療③
30	紹介状の書き方

科目名	柔道整復学演習:実技		開設時期	通年
学年	3年		評価方法	定期試験
単位数	2単位		授業回数	30回
目標	(1)老年病を包括的に理解し、その予防と治療およびその社会的な意義を学ぶ。 (2)介護に関する専門知識を修得するとともに、介護を必要とする「人」について理解し、社会的要請の多様化に対応できる力を養う。			

#### 講義内容／前期

1	老年学と老年医学 (1) 老年学と老年医学の概念 (2) 疫学 (人口動態, 死因統計, 縦断的調査など)
2	老化の定義および老化学説
3	生理的老化と病的老化
4	老年病の臨床 老年者の主要な疾患
5	老年者の病態と疾患の一般的特徴
6	要介護に至る疾患
7	老年者の悪性腫瘍 多臓器不全
8	老年者との面談と診察技術
9	老年者の生活指導 (食事療法・運動療法を含む) 1
10	老年者の生活指導 (食事療法・運動療法を含む) 2
11	老年者に特有な症候 意識障害・失神
12	認知症 せん妄 言語障害
13	抑うつ 頭痛 不眠 めまい
14	腰痛
15	急性腰痛

科目名	柔道整復学演習：実技	開設時期	通年
学年	3年	評価方法	定期試験
単位数	2単位	授業回数	30回
目標	(1)老年病を包括的に理解し、その予防と治療およびその社会的な意義を学ぶ。 (2)介護に関する専門知識を修得するとともに、介護を必要とする「人」について理解し、社会的要請の多様化に対応できる力を養う。		
講義内容／後期			
16	心血管系疾患		
17	脳血管障害		
18	嚥下障害・誤嚥 吐血・下血		
19	予防医学 老化・老年病の危険因子と予防		
20	介護保険制度		
21	老年者介護の特徴と実際		
22	認知症高齢者の介護		
23	作業療法 運動療法		
24	脳血管障害後遺症の介護とリハビリテーション		
25	言語障害の介護とリハビリテーション		
26	嚥下障害の介護とリハビリテーション		
27	骨折後の介護とリハビリテーション		
28	廃用性症候群の予防		
29	在宅介護とリハビリテーション		
30	老年者と精神医療 問題行動（徘徊、妄想、暴言、暴行他）		

科目名	臨床実習Ⅰ(附属接骨院実習)	開設時期	通年	
学年	1年	評価方法	実習評価表とレポートによる評価を行う。	
単位数	1単位	授業回数	20回	
目標			(1) 実際の臨床を通じて患者の診察と治療が適切に行えるよう診療技術を体得させる。 (2)さらに、患者心理を理解し医療人としてふさわしい心構えと態度を養う。 (3)問診にもとづき必要な理学検査を行い、病態を把握し治療方針をたてることができる。 (4)治療後の効果を判定できる。 (5)病歴をカルテに記載できる。	
講義内容				
1・2	<p>(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分 (実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. 教員による診療の見学 3. 物療補助 4. ベッドメイク（治療準備・後片付）</p> <p>(カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 臨床実習の心構え 3. 物理療法について ・附属接骨院の治療器械の使用方法 ・適応と禁忌、正しい物理療法機器の使い方を知る。</p>			
3・4	<p>(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分 (実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. 教員による診療の見学 3. 物療補助 4. ベッドメイク（治療準備・後片付）</p> <p>(カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 整骨院での救急医療体制 ・エマージェンシープラン ・心肺蘇生法 ・AEDの使用方法</p>			
5・6	<p>(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分 (実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. 教員による診療の見学 3. 物療補助 4. ベッドメイク（治療準備・後片付）</p> <p>(カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 医療面接の方法</p>			

	<p>(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分</p> <p>(実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. 病歴聴取、理学検査 3. カルテ作成 4. 治療方針 5. 教員による診療の見学 6. ベッドメイク（治療準備・後片付）</p> <p>(カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 視診 3. 聴診</p>
7・8	<p>(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分. 班分</p> <p>(実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. 問診（病歴聴取） 3. 教員による診療の見学 4. 接骨院における理学検査 5. ベッドメイク（治療準備・後片付）</p> <p>(カンファレンスならびに学習) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 触診・身体の計測 3. 脈拍・血圧測定</p>
9・10	<p>(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分. 班分</p> <p>(実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. 問診（病歴聴取） 3. 教員による診療の見学・補助 4. 接骨院における理学検査 5. ベッドメイク（治療準備・後片付）</p> <p>(カンファレンスならびに学習) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 関節可動域測定（上肢） 3. 徒手筋力テスト（上肢）</p>
11・12	<p>(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分. 班分</p> <p>(実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. 問診（病歴聴取） 3. 教員による診療の見学・補助 4. 接骨院における理学検査 5. ベッドメイク（治療準備・後片付）</p> <p>(カンファレンスならびに学習) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 関節可動域測定（下肢） 3. 徒手筋力テスト（下肢）</p>
13・14	<p>(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分. 班分</p> <p>(実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. 問診（病歴聴取） 3. 教員による診療の見学・補助 4. 接骨院における理学検査 5. ベッドメイク（治療準備・後片付）</p> <p>(カンファレンスならびに学習) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 関節可動域測定（下肢） 3. 徒手筋力テスト（下肢）</p>

15・16	<p>(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分、班分 (実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. 問診（病歴聴取） 3. 教員による診療の見学・補助 4. 接骨院における理学検査 5. ベッドメイク（治療準備・後片付） (カンファレンスならびに学習) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 深部反射 3. 知覚検査</p>
17・18	<p>(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分 (実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. 問診（病歴聴取） 3. 教員による診療の見学・補助 4. 接骨院における理学検査 5. ベッドメイク（治療準備・後片付）  (カンファレンスならびに学習) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 上肢徒手検査 1 3. 上肢徒手検査 2</p>
19・20	<p>(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分 (実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. 問診（病歴聴取） 3. 教員による診療の見学・補助 4. 接骨院における理学検査 5. ベッドメイク（治療準備・後片付）  (カンファレンスならびに学習) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 下肢徒手検査 1 3. 下肢徒手検査 2</p>

科目名	臨床実習IV(スポーツ現場実習)			開設時期	通年			
学年	2年			評価方法	実習評価表とレポートによる評価を行う。			
単位数	1単位			授業数	20回			
目的	(1)トレーナーとしての1日の業務を経験する。 (2)医療人としてのふさわしい態度や行動をとることができる。 (3)選手、コーチと望ましい人間関係を築くことができる。・スポーツ選手のが衣装に対して現場で適切な処置ができる。 (4)復帰か交代かを的確、迅速に判断することができる。 (5)選手のメンタル面のアドバイスや競技能力向上のトレーニング指導ができる。 (6)安全な競技復帰のためのリハビリプログラムの作成と実践ができる。							
講義内容								
1~4	(集合) 1. 点呼、諸注意 (実習内容) 1. エマージェンシープランの確認 2. アイシング、ウォーターの準備 3. 練習前ケア (テーピング、ストレッチ) 4. ウォーミングアップの見学 5. オンフィールドでの評価 6. クーリングダウン 7. 練習後のケア (カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. エマージェンシープランの立案 3. アイスパックの作成、ウォーター準備							
5~8	(集合) 1. 点呼、諸注意 (実習内容) 1. エマージェンシープランの確認 2. アイシング、ウォーターの準備 3. 練習前ケア (テーピング、ストレッチ) 4. ウォーミングアップの見学 5. オンフィールドでの評価 6. クーリングダウン 7. 練習後のケア (カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. パートナーストレッチの実施							
9~12	(集合) 1. 点呼、諸注意 (実習内容) 1. エマージェンシープランの確認 2. アイシング、ウォーターの準備 3. 練習前ケア (テーピング、ストレッチ) 4. ウォーミングアップの見学 5. オンフィールドでの評価 6. クーリングダウン 7. 練習後のケア (カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. ウォーミングアップの指導							
13~16	(集合) 1. 点呼、諸注意 (実習内容) 1. エマージェンシープランの確認 2. アイシング、ウォーターの準備 3. 練習前ケア (テーピング、ストレッチ) 4. ウォーミングアップの見学 5. オンフィールドでの評価 6. クーリングダウン 7. 練習後のケア (カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 足関節捻挫の評価、テーピング、リハビリ							
17~20	(集合) 1. 点呼、諸注意 (実習内容) 1. エマージェンシープランの確認 2. アイシング、ウォーターの準備 3. 練習前ケア (テーピング、ストレッチ) 4. ウォーミングアップの見学 5. オンフィールドでの評価 6. クーリングダウン 7. 練習後のケア (カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 膝関節捻挫の評価、テーピング、リハビリ							

科目名	臨床実習III(機能訓練実習)	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	実習評価表とレポートによる評価を行う。
単位数	1単位	授業回数	20回
目的	(1) 実際の臨床を通じて機能訓練指導が適切に行えるよう技術を体得させる。 (2) 患者心理を理解し医療人としてふさわしい心構えと態度を養い、機能訓練指導員の業務が行えるようにする。 (3) 機能訓練のトレーニング指導を行うことができる。 (4) 間診にもとづき必要な理学検査を行い、病態を把握し治療方針をたてることができる。		
講義内容			
1~5	(集合) 1. 点呼、諸注意 (実習内容) 1. 機能訓練の目的① 2. レッドコード、マシンを使用した機能訓練の見学① 3. 機能訓練の目的② 4. レッドコード、マシンを使用した機能訓練の見学② 5. ストレッチ参加 6. レッドコード実習 (2名1ペア) 7. マシン実習 (2名1ペア) 8. ストレッチ実演 9. レッドコード、TRX, トレーニング 10. レッドコード実技 11. 座位から立位に関与する筋肉、復習及び課題配布		
6~10	(集合) 1. 点呼、諸注意 (実習内容) 1. 機能訓練メニューの組み方① 2. レッドコード、マシンを使用した機能訓練の見学① 3. 機能訓練メニューの組み方② 4. レッドコード、マシンを使用した機能訓練の見学② 5. ストレッチ参加 6. レッドコード実習 (2名1ペア) 7. マシン実習 (2名1ペア) 8. ストレッチ実演 9. レッドコードメニュー構成 10. レッドコード実技 11. 歩行に関与する筋肉、復習および課題配布		
11~15	(集合) 1. 点呼、諸注意 (実習内容) 1. カンファレンス、諸注意 2. レッドコード、マシンを使用した機能訓練の実演① 3. カンファレンス (反省、改善) 4. レッドコード、マシンを使用した機能訓練の実演② 5. ストレッチ実演 6. レッドコード実習 (2名1ペア) 7. マシン実習 (2名1ペア) 8. トレーニングメニュー構成及び実技 9. レッドコードメニュー構成 10. レッドコード実技 11. 学生実習動画によるカンファレンス 総評		
16~20	(集合) 1. 点呼、諸注意 (実習内容) 1. カンファレンス、諸注意 (準備) 2. レッドコード、マシンを使用した機能訓練の実演① 3. カンファレンス (反省、改善) 4. レッドコード、マシンを使用した機能訓練の実演② 5. ストレッチ実演 6. レッドコード実習 (2名1ペア) 7. マシン実習 (2名1ペア) 8. トレーニングメニュー構成及び実技 9. レッドコードメニュー構成 10. レッドコード実技 11. 学生実習動画によるカンファレンス 総評		

科目名	臨床実習Ⅱ（附属接骨院実習）	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	実習評価表とレポートによる評価を行う
単位数	1.5単位	授業数	40回
目的	(1) 実際の臨床を通じて患者の診察と治療が適切に行えるよう診療技術を体得させる。 (2) 患者心理を理解し 医療人としてふさわしい心構えと態度を養う。 (3) 問診にもとづき必要な理学検査を行い、病態を把握し治療方針をたてることができる。 (4) 治療後の効果を判定できる。 (5) 病歴をカルテに記載できる。		
講義内容			
1	カルテ記載方法		
2	療養費受領委任払い事務		
3	足関節捻挫の治療法		
4	足関節捻挫の治療法		
5	膝関節捻挫の治療法		
6	膝関節捻挫の治療法		
7	腰部捻挫		
8	腰部捻挫		
9	テニス肘		
10	テニス肘		
11	野球肩		
12	野球肩		
13	ジャンパー膝		
14	ジャンパー膝		
15	シンスプリント		
16	シンスプリント		
17	アキレス腱炎		
18	アキレス腱炎		
19	肩関節脱臼		
20	肩関節脱臼		
21	肩鎖関節脱臼		
22	肩鎖関節脱臼		
23	コーレス骨折		
24	コーレス骨折		
25	鎖骨骨折		
26	鎖骨骨折		
27	肘関節脱臼		
28	肘関節脱臼		
29	脊椎バイオメカニクス理論による治療		
30	脊椎バイオメカニクス理論による治療		
31	脊椎バイオメカニクス理論による治療		
32	脊椎バイオメカニクス理論による治療		
33	脊椎バイオメカニクス理論による治療		
34	脊椎バイオメカニクス理論による治療		
35	脊椎バイオメカニクス理論による治療		
36	脊椎バイオメカニクス理論による治療		
37	脊椎バイオメカニクス理論による治療		
38	脊椎バイオメカニクス理論による治療		
39	脊椎バイオメカニクス理論による治療		
40	脊椎バイオメカニクス理論による治療		

科目名	臨床実習IV(病院実習)	開設時期	通年
学年	2年	評価方法	実習評価表とレポート提出による評価を行う。
単位数	1単位	授業回数	10回
目的			(1) 実際の整形外科での臨床を通じて患者の診察と治療が適切に行えるよう診療技術を体得させる。 (2) 患者心理を理解し医療人として、ふさわしい心構えと態度を養う。 (3) 問診にもとづき必要な理学検査を行い、病態を把握し治療方針をたてることができる。 (4) 治療後の効果を判定できる。 (5) 病歴をカルテに記載できる。
講義内容			
1~4	(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分 (実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. リハビリ室においてによる診療の見学 3. 物療補助 4. ベッドメイク (治療準備・後片付)  (カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 臨床実習の心構え		
5~8	(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分 (実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. リハビリ室においてによる診療の見学 3. 物療補助 4. ベッドメイク (治療準備・後片付)  (カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 画像診断による症例検討		
9~12	(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分 (実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. リハビリ室においてによる診療の見学 3. 物療補助 4. ベッドメイク (治療準備・後片付)  (カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. リハビリプログラムについて		
13~16	(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分 (実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. リハビリ室においてによる診療の見学 3. 物療補助 4. ベッドメイク (治療準備・後片付)  (カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 症例検討		
17~20	(集合) 1. 点呼、諸注意 2. 班分 (実習内容) 1. 患者誘導・介助 2. リハビリ室においてによる診療の見学 3. 物療補助 4. ベッドメイク (治療準備・後片付)  (カンファレンス) 1. カンファレンス、質疑応答 2. 症例検討		